

## 第7回岩手・宮城内陸地震に係る山地災害対策検討会 議事要旨

1 開催日時：平成20年9月28日(日) 13:30～16:50

2 開催場所：ハーネル仙台 3階「蔵王」(宮城県仙台市)

### 3 議 事

- (1) 荒砥沢地すべりの課題と対策方針
- (2) 市野々原地区の課題と対策方針

### 4 主な検討結果・報告及び委員の発言内容

#### (1) 荒砥沢地すべりの課題と対策方針

- ・ 前回の検討会以降、調査ボーリング箇所等が増え、地すべり活動のより詳しいメカニズムが確認できるようになった。
- ・ 地すべりは、非常に緩やかな勾配で移動体が滑って発生した。
- ・ GPS観測のデータと、地中の歪み計や孔内傾斜計の観測データから、移動体内部の変形は認められるが、地すべり全体としては、動きがほぼ止まっているといえるのではないか。
- ・ 全体ブロックの動きは、地表面の移動の観測及び地中の動きの観測から、地すべり全体としては、動きがほぼ止まっていると考える。
- ・ 上部の拡大ブロックは、動きが累積しており慎重に観測していく必要がある。
- ・ 移動体内部の地下水位の挙動と移動量を今後詳しくモニタリングしていき、最適な対策工を検討する必要がある。
- ・ ダム湖への流入水量等、周辺の水文特性を調べたうえで、表面排水工と地下水排除工を検討する必要がある。
- ・ ダム湖内へ細かな土砂が流入しないような配慮が必要である。
- ・ 当面の対策として、地すべり地内の湛水解消対策、地表水対策として、溪間工、水路工を行うと共に、滑落崖の安定化対策として頭部の排土工等を行う。
- ・ 更なる調査・検討結果を待って、当対策検討会を12月頃に開催し、荒砥沢ダム上流地すべりの対策工を検討することとする。

#### (2) 市野々原地区の課題と対策方針

- ・ 地すべり地の北側に発生した新たな亀裂について、新たに調査・観測を行うこととする。
- ・ 対策工の決定のための定量的な根拠データについて整理する必要がある。
- ・ 地すべり地直下にある河道開削箇所との位置関係を踏まえて、工事中の安全確保等に配慮した対策工を検討する必要がある。
- ・ 対策工については、当検討会の意見を踏まえ、調査を継続し、森林管理局で具体的な検討を行うこととする。

以上